

# 男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会通信No.10

事務局 秋田県立支援学校天王みどり学園

発行 平成28年6月21日

## 平成28年度第1回男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会

### 1 全体会

#### (1) 事務局の報告

事務局から昨年度の本協議会及び地元開催の協議会の活動報告に続いて、昨年度スタートした男鹿市5歳児けんこう相談の取り組みを発表していただきました。

#### (2) 男鹿市満5歳児けんこう相談の取組 男鹿市健康子育て課主査 千葉 純子氏

##### ①目的

ア 集団行動や人との関わりが苦手な児を早期に発見し、各専門機関が情報を共有し、就学に向けた支援へつなげる。

イ 子どもの発達や成長、子育て、家庭環境などに関する保護者の悩みや不安を軽減する。さらに、就学に向けた保護者の意識を高め、就学準備を始める契機とする。

##### ②昨年度の実績 参加児数119名（対象者数125名）

- ・開催回数⇒6回 場所⇒男鹿市保健福祉センター
- ・スタッフ⇒教育委員会、福祉事務所、子育て支援センター、健康子育て課、保育会、各保育園・幼稚園、医療療育センター、天王みどり学園
- ・実施内容⇒対象児～検査（会話、動作・操作、知的理解）  
観察（集団行動、理解、聞く姿勢）  
保護者～学習会、希望者による個別相談



##### ③けんこう相談の事後

- ・フォロー対象児の保護者に、臨床心理士・保健師が保護者に結果を電話で伝える。その後、園訪問、家庭訪問、医療機関の紹介等、必要に応じたサポートを行う。

##### ④成果と課題

###### 〈成果〉

- ・関係機関とつながりやすくなり、連携した支援が期待できる。
- ・保護者と子どもの発達についても共通の話題にしやすくなった。
- ・支援の必要な情報が得られるので、就学に向けた準備が計画的にできる。

###### 〈課題〉

- ・支援の必要を感じていない保護者との関わり方。
- ・フォロー対象児への個別指導ができる体制づくり。



##### ⑤参加者の声（アンケートより）

- ・保護者に子どもの発達や生活などを考えてもらうきっかけになり、一歩ずつでもその後のよりよい支援につなげていけるのではないかと思います。
- ・支援の必要な子どもの早期出会いが可能になるので、子どもにとっても保護者にとっても幸せなことだと思います。
- ・「切れ目のない支援」は、地域の方たちも心強いと思います。一部、理解を示さない保護者への対応が大変ですが、粘り強く取り組んでいただきたいと思います。
- ・早期から児へフォローしていく上で、満5歳児相談は有効であるとともに、園、健康センター、学校、教育委員会が情報共有がしやすくなると感じました。
- ・潟上市では満5歳児相談の準備中であり、事前準備のポイントを確認することができました。男鹿市の担当者ともつながりができ、心強く感じました。
- ・男鹿市の5歳児相談の実際について詳しく知ることができ、とても参考になりました。良かった点や課題を考慮しながら、当町でも検討していきたいと思いました。
- ・相談会に携わるスタッフが揃い、素晴らしい事業を実施していると感じました。
- ・保護者の早期認識において、効果が期待できる取組だと感じ、勉強になりました。

## 2 市町村ごとの分科会

### (1) 男鹿市

- ・満5歳児けんこう相談をきっかけに、他の機関とつながることを期待したが、うまくいかないケースもあり、保護者の理解を得るのが難しい。相談後の、日々の園での関わりや保護者への働き掛けが大きいと思う。焦らず見守ることも大切である。
- ・小学校からの情報が引き継がれない生徒がいる。高校に書面で引き継がれることが少ないので、直接中学校から情報を得ることがある。
- ・成人の人が離職して来談するケースがあるが、幼少期の状況を聞くと、発達のつまづきがあったのではと感じるケースがあるので、早期からの関わりが大切である。



### (2) 潟上市

- ・園では気になる子どもであると考えているが、それをどのように保護者に理解してもらえるように伝えたらよいか、悩むことが多い。今年から潟上市で実施される満5歳児相談がスタートするので、保護者が子どもを理解するきっかけになるよう期待したい。
- ・特別支援学校の見学や教育相談を希望する場合は、どのような手続きをしたらよいか知りたい。
- ・一つの部署だけでなく、保健、福祉、教育等が連携することで、切れ目のないつながりができていく。

### (3) 五城目町

- ・本地区で最初に5歳児発達相談会を実施しているが、今年度から臨床心理士による検査を導入し、多方面から子どもの発達をチェックする体制を整えた。
- ・就学支援シートを活用した保護者面談を行うなど、子どもに関する情報だけでなく、保護者の情報も小学校に伝える仕組みを作りたい。

⇒今月27日に関係者が集まり、就学支援シートの効果的な活用について検討する予定である。

- ・保護者の子ども理解を促すためには、信頼関係を築くことが大切である。また、子どもの困り感を伝え、関係機関がその情報をバトンすることで、保護者の理解につながる。

### (4) 南秋地区（八郎潟町・井川町・大潟村）

- ・就学支援シートを作成する際、保護者と園がそれぞれ記入する欄を設けたことで、活用しやすくなった。今年度も教育委員会主催で地域の連携協議会を実施する予定である。（井川町）
- ・就学支援シートをより小学校で活用しやすくするために検討したい。（八郎潟町）
- ・園、小学校、中学校が連携して、互いの授業等の参観や情報交換を行っている。（大潟村）

※全ての分科会で共通した話題が、「保護者の子ども理解を促すためにはどうしたらよいか」でした。改めて、関係機関が連携して子どもと家族を支える体制づくりの必要性を感じました。8月3日（水）午後2時から、天王みどり学園を会場に「保護者の子ども理解を促す」をテーマに研修会を予定していますので、ご参加ください。

## 3 今後の本協議会について（参加者のアンケートより）

- ・企業の代表の方にも入ってもらえると、地域全体で支えていくことになり、意味あるものになっていくのではないかと。
- ・各地域ごとの分科会がとても良いと感じている。次も同じメンバーで話せる、相談できるというのがとてもよい。
- ・事例を基にした協議になるとよい。
- ・高校は広範囲から通学しているので、他地区の状況も聞きたい。



## 4 事務局からのお知らせ

### (1) 地元開催の連携協議会について（男鹿市は10月3日・1月24日に決定）

- ・各市町村の行政担当者で連絡を取り合い、開催時期等を検討したいと思います。今年度は、全ての市町村で開催したいと考えています。

### (2) 「就学や教育に関する相談会」

- ・今年度は、8月22日（月）秋田県総合教育センターを会場に開催されます。就学相談をはじめ、発達に関することや特別支援学校のこと等、気軽に相談できます。各市町村教育委員会が窓口になっていますので、お申込みください。